



ちょっと恥ずかしがり屋のT君

毎朝のラジオ体操

### \*\*今年も職場体験に来てくれました\*\*

夏休み終盤の恒例行事である中学生の職場体験に、本社のある大竹市小方学園の中学生が来てくれました。今回来てくれたT君は建設業に興味があったようで、毎朝本社の前を通って通学していたので、どんな仕事なのか知りたかったそうです。

毎年の事ですが、我が社に来てくれる小方中学校の生徒さんは皆まじめな子ばかり。今年のT君もまじめな上に”恥ずかしがり屋”でしたが、お客様のお宅に何うと頑張って挨拶をしていたようです。

最後の日に私が、建築の仕事に就くために必要な資格や、その資格を取るために必要な学歴などの話をしたら、「数学が好きなので、理系に進んで勉強したい」と話してくれました。僅か一週間の体験でしたが、T君の進路選択の参考になれば何よりです。(啓)

### 不用品処分サービス始めました!

前回のこの住まいる通信でお知らせしました”不用品処分”のサービスを始めました。前回の住まいる通信で予告をしたら、何件かお申し込みをいただき、不用品で困っている方が多いことを再認識しました。

同封の価格表をご確認ください。事前にお伺いの上確認させていただきますので、お気軽にお申し込みください。同封の単価表をご参考にして下さい。



### ★イベント案内★

#### キッチンリフォーム相談会

日程：11月15日(土)・16日(日) 10:00~17:00

場所：ウッドワンプラザ広島  
(廿日市市役所裏)

地元、建材メーカー“ウッドワン”の広島ショールームで行います。このショールームの特徴は何と言っても日本一の“無垢キッチン”のショールームです是非この機会に、地元メーカーのキッチンを是非ご覧ください

そして併せて廿日市店好評“フルーツの詰め放題”と6月に大人気だった“ブリザーブドフラワー教室”を行います今回はクリスマスに向けて“クリスマスリース”を作るとのことですので お早めにお申し込みください!

詳しくは、同封のチラシをご覧ください!

お待ち  
しています!



宮本 廿日市店



「住まいの困った」は  
ゲイナンハウス  
大竹店・廿日市店共に

フリー  
ダイヤル

0120-505-375

ホームページ  
アドレス

<http://www.geinan-house.co.jp>

最後までお読みいただき有難うございました、次回は1月の予定です。(啓)  
\*尚、この「住まいる通信」がご不要の方はご一報願います。送付を停止いたします。



いつもお世話になっている皆様へ

# 住まいる通信

H26.10



作業する前に集まっている、たくさんのボランティアの方々



河野



さる8月20日の安佐南区・安佐北区を襲った集中豪雨による土砂災害では、74人もの人命を奪う大災害となりました。9月に入り業界団体から建築士による区役所での窓口相談や現地での調査協力の依頼があり、安佐南区役所での窓口相談や安佐北区での現地調査に行っていました。上の写真は、9月18日に安佐北区可部東での災害現場で現地調査に行った時の写真です。道路上の土砂は殆ど片付けられておりましたが、残っている建物には1階屋根まで泥水を被った跡が残っており、土砂の量の凄まじさを見ることができました。被災相談が多いため窓口相談や現地調査を延期したとのことですので、私にできることはと、今後も協力したいと思っております。詳細については、裏面で詳しく報告いたします。

今回現地で印象的だったことは、たくさんのボランティアの方々活動されていたことです。福山などから何台ものバスで来られ、写真の可部東地区だけでも何十人もボランティアの方が土嚢袋に土を入れておられ、本当に頭の下がる思いをしました。阪神の震災や東北での大災害でのボランティアの活動をテレビなどで見ていましたが、目の当たりに一生懸命に活動されている姿を見ると、「日本は本当に良い国なんだ」と恥ずかしながら、初めて自分の国を誇らしく思いました。中国・韓国から何かと批判的に叩かれている我が国ですが、いやいや皆さん日本は本当に良い国です!

さて、今年は夏らしい夏が無く、海を楽しみにしていた子供たちは本当にかわいそうでしたね。そんな季節は秋へと移り、食欲と読書の秋となりました。先日、東京の知人が仙台に行ったとかで「サンマ」を送ってくれました。サンマの刺身は広島では馴染みがありませんが、「刺身が旨いよ!」と言ってくれていたのも、家内が刺身にしてくれていたいただきましたら、臭みも全くなく脂ののって本当に美味しかったです。そして期待は、夏雨が多かったので秋の味覚「松茸」ですね!さて口に入るでしょうか?

そして読書ですが、最近読んだ本は「やられたらやり返す、倍返しだ!」で有名になった「半沢直樹」シリーズを書いた池井戸潤の「BT'63」です。父と子をテーマにした小説で、読み進めていると小説の主人公と同じように「こんな時に親父はどう思ったんだろうか?」と仕事のことなどを思い、今年亡くなった父の事を思い出してしまいました。いい本に出会えることは幸せなことですね。(啓)



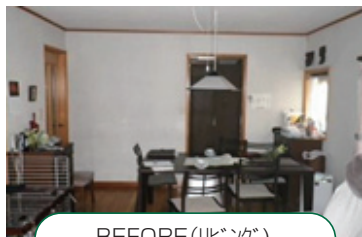
# 無駄なスペースを活用して 孫もワンちゃんも大喜び!

〇様邸:1階部分改修」施工報告

1990年建築  
施工部分:44.6m<sup>2</sup>(13.5坪)  
施工費:500万円(税込)



BEFORE



BEFORE (リビング)

リビングと仕切られていた和室と広縁を、可動式間仕切りで一体とした空間として使えるようになり、ワンちゃんも大喜び!!



AFTER



AFTER(可動式間仕切りを開け閉めした状況)



AFTER(キッチン)

今回の現場は、築25年の2階建て木造住宅で、水廻り及びリビングと和室の一部をリフォームさせていただきました。今回のリフォームのポイントは「無駄なスペースの活用」です。

これまで二間続きの6畳の部屋は広縁を介しての採光でしたので暗く、殆ど物置のように使われていました。お孫さんたちが集まると12畳のリビングは手狭に感じますが、普段の二人の生活では十分な上、部屋を広げてしまうとエアコンなどの光熱費もバカにならないので、何とかならないかと常々思っておられたそうです。しかも、外出から帰った時に上着などを掛けるクローゼットのようなものも無く、つい和室の6畳に置いてしまう悪循環となっていました。

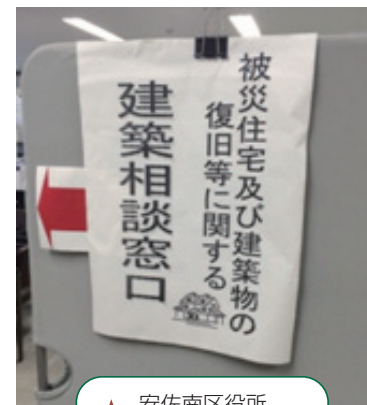
そこで、この物置になっていた和室の6畳間を取り入れてスペースの活用はできないかと考えたのが今回のプランです。ただ、リビングとの間仕切りが構造的に重要な耐力壁となっていたので、耐震診断をによりチェックと補強を行うことで間仕切りを撤去し、広い空間を実現することが出来ました。

写真のように、この間仕切りを可動式間仕切りとすることで、通常は12畳のリビングとして使い、お孫さんが来ると18畳のリビングに広げて使っていただけます。

また、廊下に面した和室6畳の一部に収納スペースを設けたことで、外出からの帰宅時の上着などを掛けるクローゼットとして使っていただけるようにしました。さらに、その一部をパソコンスペースとしたことで、スッキリとした室内となりました。(啓)

# 被災現場

## 広島市安佐南区・安佐北区 ”大規模土砂災害の現場から” 区役所での窓口相談からの報告



安佐南区役所

窓口相談は、市の職員と一緒に話を聞きます。建築に関する相談もありますが、切実なお金に関する相談が多く、特に高齢世帯の方は住み替えも難しく、何とかできないものかと同情してしまいます。



屋根の軒裏まで泥水を被った跡が残っています。写真左から右へ土砂が流れています。1階部分は土砂が入り込み、住むには全面改修が必要な状況でした。

冒頭、安佐南区・安佐北区の大規模土砂災害について書きましたが、この項で少し詳しくご報告させていただきます。

9月に建築士に対する業界団体からの依頼で、安佐南区役所の建築相談窓口の対応を二日、そして安佐北区の現地調査を一日行ってまいりました。窓口相談では被災された方が写真を持って、建物や崩れた法面について大丈夫かどうか、さらにはここに住んで大丈夫だろうかと不安な面持ちで来られます。勿論その場で判断できるわけではありませんので、後日現場調査を行い、専門家としてのアドバイスをさせていただきます。

今、この文章は安佐南区役所で相談の合間に書いてありますが、今朝相談に来られた方は八木地区で一番被害が大きかった八木3丁目の一番上に住んでおられた方。このお宅の三軒下から多くの家が跡形もなく流されてしまっており、このお宅も川に面した10畳の部屋が流されてしまったそうです。その部屋には奥様が休まれていたのですが、余りにも川の音が大きく雷が激しいので恐ろしく隣りの部屋に移動したとたんに土石流で流されてしまい、そこから流木や泥水が入ってきて生きた心地はしなかったと話してくれました。まさに九死に一生を得たとはこのことでしょうか。最後まで遺体が分からなかった女性はこのお宅の5軒下の家だったそうです。

左の現場調査に行った写真の地域(可部東地区)のお宅も、一階の屋根まで泥水を被った跡が残っており、土砂の水位が高く、膨大な量だったことが分かります。八木地区にしても、いずれも河川に沿ったお宅が大きな被害を受けています。さらに、今回の土砂災害が起きた地域を見てみると、いずれも急峻な谷に土石流が発生しており、これから新たに敷地を造成して住宅を建築する際の参考になると思います。

広島県はHPで土砂災害危険地域を公表しています。皆さんの住まいの地域が指定されていないかチェックされることをお勧めします。

私が住んでいる地域も土砂災害危険地域と指定されており、建物を建てるなどの行為を行うときは県に届け出を出さなくてはなりません。終戦の年の大雨で自宅の裏山が崩れ、海軍から帰ってきた父は祖父と二人で一年がかりで復旧したと聞いた記憶があります。10年前に市がコンクリートで対策工事してくれたので今は大きな心配はありませんが、自分の住んでいる土地について知ることは重要であることを教えられます。(啓)